

EDカードに関する規制改革要望

2016年2月16日
公益社団法人関西経済連合会
新関西国際空港株式会社

現状

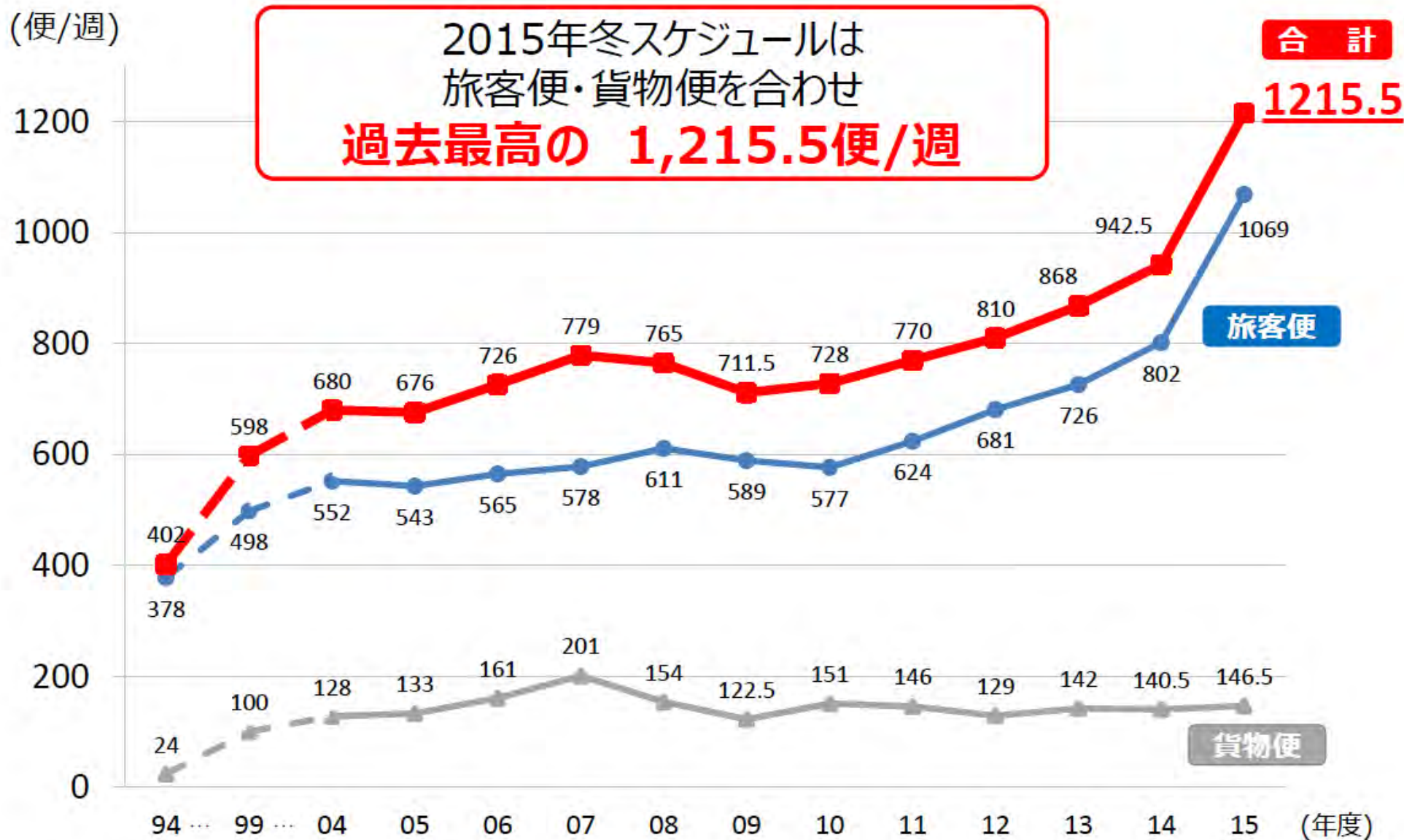
- 関西では、関西広域観光戦略を2014年2月に策定し、2020年に800万人の外国人旅行者数などの目標を掲げ、取り組みを推進。
- 一方、空港においては、入国審査場が混雑。入国審査が混雑する要因の一つとしてEDカードの記入漏れや記入ミスがあげられる。
- 混雑対策として、法務省大阪入国管理局は、審査官の大幅な増員、国土交通省と連携したブース増設、審査場内整理要員の配置や審査ブースの柔軟な運用などを進めるとともに、EDカードについても、航空会社や現地旅行会社に対し、機内での事前配布や記入方法案内の周知徹底の働きかけを実施。新関西国際空港会社も審査場内案内スタッフの派遣やターミナルビル内での自動化ゲート利用促進協力といった取り組みを連携して実施中。



提案内容

- 入国審査場に置いてあるEDカードの様式をパソコンでダウンロードできるようにし、訪日外国人が旅行前にプリントアウトし、記入した上で、到着時の入国審査にのぞむことができるようにしていただきたい。
- さらに、将来的には、EDカードの廃止およびインターネットを活用した電子ビザや事前認証制度も検討いただきたい。

【参考】関西国際空港における国際線便数の推移（冬スケジュール）



※各年度の値は、ピーク月における実績（2015年冬スケジュールは計画）値。